

原爆投下候補地だった新潟から核兵器を解体しよう。長崎市の僧侶が米国最初の原爆実験場を目指して行脚するドキュメンタリー映画「GATE」の上映を機に、市民団体が発足し、こんな機運が高まっている。9日には、作品の監督を務めた世界核兵器解体基金（GNDF）代表の米国人、マット・テイラーさんが新潟市を訪れて講演、核兵器解体への協力を呼びかける。（永岡栄治）

## 新潟発 核兵器解体へ道筋

講演を企画したのは、昨年7月にGNDF新潟協力センターを立ち上げた新潟市西区の美容コンサルタント、西山貴子代表(44)だ。

西山さんは映画「GATE」が公開されるのを知り、上映館を探すうちに昨年5月、東京で監督のテイラーさんに会うことができた。核兵器解体にかけるテイラーさんの思いに触発され、初対面で西山さんはこう宣言してしまう。

「この映画を新潟の皆さんに見せたい。そして、新潟から核兵器1本解体します」

西山さんはそのときの思いをこう振り返る。「私はこれまで平和に全然関心がなかった。終戦記念日や原爆の日だけ注目を集める平和団体に違和感を覚えてい

た。それだけに『核兵器はいらない。だったらなくしていこう』というマットの主張が新鮮だった」

昭和20年8月6日、広島市に投下された原爆。焦土と化した被爆地の残り火は福岡県星野村の平和の塔に移され、今も燃え続けている。テイラーさんの働きかけで、原爆投下から60年となる平成17年7月、長崎市の皓台寺の僧侶らがその「原爆の火」を携え、サンフランシスコから世界最初の原爆実験場トリニティサイト（ニューメキシコ州）まで2500キロの行程を25日間かけて行脚した。その模様を撮影したのが映画「GATE」だ。

昨年6月に初めて作品を

見た西山さんは、完全封鎖されたトリニティサイトの存在、核実験場の風下で今も被曝に苦しむ人々に衝撃を受けた。「泣いている場合じゃない」。すぐさま上映準備に取りかかり昨年9月、県民会館で2回の上映



昨年9月、新潟市内で開かれた映画「GATE」上映会であいさつするマット・テイラーさん(左)と西山貴子さん

(西山さん提供)



60年前に生まれた「原爆の火」を米国に返すため、原爆実験場トリニティサイトをめぐり行脚する皓台寺の僧侶たち（映画「GATE」の1シーンから）

### 映画「GATE」米国人監督あす講演

会を開催、約1000人を集めた。見終わった後、涙を流して何も話せない初老男性の姿を見た。「やってよかった」。映画は次第に反響を呼び、県内各地で自主上映会を重ねていった。

折しも、今年就任したバラク・オバマ米大統領は「核廃絶」を掲げ、核保有大国の米露が核弾頭80%削減を打ち出した。核軍縮の潮流が生じているが、GNDFによると、世界には約3万発の核兵器があり、このうち核拡散防止条約で解体されるべき約1万発がそのまま放置され、テロ組織に奪われる危険にさらされている。また、新潟市の姉妹都市ウラジオストクなどロシア極東の軍港に退役し

た原子力潜水艦が解体されずに係留されており、放射能漏れが懸念されている。

「厳しい国際情勢下で核兵器は必要だという意見は当然ある。だからGNDFはまず、使われなくなった核兵器や原潜の一刻も早い解体を訴えているんです」

思いが理解されず落ち込むこともある。そんなとき、励ましてくれたのは若

■世界核兵器解体基金連合で開かれた核拡散防止複数のNGO（非政府組織）サンフランシスコ、モスクワ、体への参加を許可するロシ印した。核廃絶への賛否加するプロセスを重視すル1基の解体を終え現在、体中。兵器から取り出しンに加工され、米国の原される。



60年前に生まれた「原爆の火」を米国に返すため、原爆実験場トリニティサイトをめぐって行脚する皓台寺の僧侶たち(映画「GATE」の1シーンから)

会を開催、約1000人を集めた。見終わった後、涙を流して何も話せない初老男性の姿を見た。「やってよかった」。映画は次第に反響を呼び、県内各地で自主上映会を重ねていった。

## 映画「GATE」米国人監督あす講演

折しも、今年就任したバラク・オバマ米大統領は「核廃絶」を掲げ、核保有大国の米露が核弾頭80%削減を打ち出した。核軍縮の潮流が生じているが、GNDFによると、世界には約3万発の核兵器があり、このうち核拡散防止条約で解体されるべき約1万発がそのまま放置され、テロ組織に奪われる危険にさらされている。また、新潟市の姉妹都市ウラジオストクなどロシア極東の軍港に退役し

た原子力潜水艦が解体されずに係留されており、放射能漏れが懸念されている。

「厳しい国際情勢下で核兵器は必要だという意見は当然ある。だからGNDFはまず、使われなくなった核兵器や原潜の一刻も早い解体を訴えているんです」

思いが理解されず落ち込むこともある。そんなとき、励ましてくれたのは若

者たちだ。「おれたちの力で解体できるの」「それって格好いい」。学校の平和教育とは違う形の活動に賛同し、手伝ってくれた。

核兵器1基の解体費は約1000万円。「8月には新潟市で国連軍縮会議が開かれる。ぜひ新潟の人々の力で核兵器を解体させたい」。西山さんは、その夢に向けて走り続ける。

◇

講演は午後2時から新潟市西区鳥原の市黒崎市民会館で開かれ、大学生らが加わるパネルディスカッションもある。入場料は1000円(中学生以下無料)で、一部は核兵器解体に充てられる。問い合わせは新潟協力センター ☎025・250・5212。

■世界核兵器解体基金(GNDF) 2005年、国際連合で開かれた核拡散防止条約再検討会議に集まった複数のNGO(非政府組織)で設立した。拠点はサンフランシスコ、モスクワ、東京。翌年5月、核兵器解体への参加を許可するロシア政府との条約議定書に調印した。核廃絶への賛否は表明せず、市民が解体に参加するプロセスを重視する。すでにロシアの核ミサイル1基の解体を終え現在、退役した原子力潜水艦を解体中。兵器から取り出した高濃縮ウランは低濃縮ウランに加工され、米国の原子力発電所で燃料として使用される。